

令和2年度 自己評価計画書

石川県立ろう学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1 語彙力の向上	①語彙の量や質を高めるため、個に応じた継続的な指導を工夫し行う。	○教務課 幼小中高等部 寄宿舎	耳からの情報が入りにくいため、語彙獲得に向けた様々な支援が必要である。	【努力指標】 語彙の量や質を高めるため、個に応じた継続的な指導を行う。	語彙の量や質を意識し、個に応じた指導を行っている教員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討する。	7月及び1月に調査 教員 保護者
2 授業実践力の向上	②「一人一研究授業」を行い、聴覚障害教育の専門性や授業力の向上を図る。	○研修課 幼小中高等部	聴覚障害教育に関わって3年未満の教員が約30%。聴覚障害に配慮した授業づくりの継承や授業改善が求められる。	【努力指標】 一人一研究授業や研修を通して、授業の改善に取り組む。	自分なりの課題を持ち、授業改善に取り組んだと感じる教員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討する。	7月及び1月に調査 教員
				【満足度指標】 学校の授業について児童生徒が満足している。	授業に満足している児童生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討する。	7月及び1月に調査 児童生徒
3 防災教育の充実	③災害や防災についての認識を深める。	○指導課 幼小中高等部 寄宿舎	災害時に自分の命は自分で守るという意識を持ち、行動できるようになる必要がある。	【成果指標】 幼児児童生徒一人一人が災害時に自分の命を守るための行動がとれるようになった。	災害や防災についての認識が深まり主体的に行動できた幼児児童生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討する。	7月及び1月に調査 教員 幼児児童生徒
	④災害を想定した組織的行動への取り組みを推進する。	○防災委員会 幼小中高等部 寄宿舎	災害時において、教職員一人一人が自分の役割を把握し、組織的な行動が求められている。	【努力指標】 教職員は災害時の各自の役割を理解し、備えることができる。	災害発生時における自分の役割を把握した行動をとることができたと感じる教職員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討する。	1月に調査 教員
	⑤帰宅困難時に自らの命を守る個人用備蓄品のシステムの構築と周知を図る。	○保体課 幼小中高等部 寄宿舎	学校の災害時備蓄品は初期対応のみ一般的なものでしかなく、個に応じた常用薬や着替え等の準備はない。	【成果指標】 児童生徒及び保護者が個人用備蓄品の必要性について理解し、準備することができた。	個人用備蓄品の必要性が理解し準備できた児童生徒及び保護者が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討する。	7月及び1月に調査 児童生徒 保護者
4 地域とのつながり	⑥地域への発信を行い、地域活動等に参加する。	○情報教育課 幼小中高等部 寄宿舎	聴者や地域の方々にとって、ろう者を知る機会が限られており、情報発信を行い、より知ってもらふ必要がある。	【努力指標】 ホームページで地域活動についての内容が毎月更新され、積極的に発信している。	HPで地域活動についての内容が毎月更新され、積極的に発信していると感じる教員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討する。	7月及び1月に調査 教員
				【満足度指標】 ろう学校ホームページで、地域活動について発信されており、満足している。	ろう学校HPが毎月更新され、地域活動について発信されていると感じる保護者が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討する。	7月及び1月に調査 保護者